

## FIS グランプリ スキージャンプ 2009 白馬大会 報告

吉田千賀

昨年までに比べて大会運営サイドの雰囲気、モチベーションが格段に上がっているように思いました。アウトランのガードレール、Exit Gate、リーダーボードなど新規作成したこと、土曜日の観客動員数が今までより多かったことなど改善された点など非公式ではありますが私が聞いた意見の中では各国コーチ、また国際スキー連盟から高く評価されています。

今年ようやくラストミニッツで獲得したスポンサー「Bet & Home」。今後につなげるため顧客が満足できるようなグラフィック、また大会作りをしていく必要がこれ以上に増してあるようです。下記、項目別に今年の反省点、また来年への改善案をまとめさせていただきます。

### 大会運営一般

#### 競技開始時間

土曜日 20:15 競技開始に関しては問題なし(イベントの理想としては開始時間が 1-2 時間早い方が日曜日と同じ理由で望ましいかもしれない)。日曜日に関しては絶対的に 2-3 時間早い設定の方がイベントとして盛り上がる。ただしユーロスポーツの放映枠の関係もあるので早めに交渉・調整に当たる必要がある。

#### TV

長野放送に制作を「依頼」したことによりグラフィックは限りなく EU スタandardに近くなった。次回制作の際はまた同じチームに担当してもらうことによってより一層いいものができる。しかし来年は日本国内での放映も再度考え直していく必要あり。

グラフィックのアイデアとしては、ユーロスポーツで放映されていることも含め、より白馬、ひいては日本をアピールできる映像にすることによって日本での白馬大会をアピールできるのでは？リーダーボードに立っている選手に傘をさしかける女性(突然雨が降ったことによりサポーターズメンバーから 1 名お願いした)が浴衣姿であったり、ノーマルにあったテントの提灯など日本風のものが各国チームや FIS スタッフの目に入っている。こういったものが映像でも見られることにより、地域アピールにつながるの間違いがない。

もっと戦術的にこれらのことを積極的に取り入れていくべきである。

例) スタッフは全員はっぴ姿・・・等

#### 場内アナウンス

スピーカーが Exit Gate エリアでアナウンスし、合間で選手ヘインタビューした試みは大切なステップアップであった。ただし、間合い等がまだ未熟、場合によっては競技アナウンスへ支障

をきたしているため、勉強のため EU 大会での視察・研修が必要である。

また場内アナウンサーはオフィシャルトレーニング日に参加選手のデータを選手エリアなどでインタビューして収集すること。

競技に関連する情報(英語でのアナウンス)特にスタートタイムに間違いが多くあり、またそれに対する訂正に遅延があった。場内アナウンスの現場に正しい資料が行き渡っているか一日ごとにブリーフィングをして確認する必要がある。

#### Exit Gate/ミックスゾーン

Exit Gate の位置をジャンプ台向って正面右側にし、TV、プレス、フォト等のミックスゾーンをアウトランに沿って作る。

Exit Gate 付近の照明を高い位置に持つてくることにより虫の弊害を取り除くことが可能。

#### イベント

大会がナイターのため日中のイベントに関して、更に一步進める必要性がある。夕方からジャンプ台にいて大人も子供も楽しめるようなお祭りのようなイベントとして捉えることが可能である(ノーマルヒル側に舞台や屋台を設置等)。

VW のバルーンは華やかな演出で人目を引くが、それゆえに今後は少なくともスポンサーとして最低限の覚書を交わしていく必要があるのではないかという指摘を Hendrik Schuermann 氏より受けた。

#### 広告宣伝

全国新聞等に広告を載せたり、CM で大会をアピールするのが一番効果的であるが、当然コストの面で不可能に近い。そこで有効活用すべきがインターネット・ホームページである。年間を通じてジャンプに関して掲載し、選手のインタビューや写真などアップすることによって常にサマーグランプリ大会に大衆の意識を向かせる。秋冬の期間は最低でも月に 1-2 回、春から夏にかけては 2-3 回と大会に向けて特集を組みつつ回数を増やしていく。

「24 時間テレビ」などへの売り込み？

#### ア krediteーション/ゾーニング

新たな試みとして写真入りのア krediteーションを導入したが、機材が 1 セットしかなく、また準備が行き届いていなかったため取得に時間がかかり過ぎた。外国からのチームや役員に関しては写真等ネットからダウンロードし、EU で事前に入手して十分に準備しておくこと。

また顔をチェックするア krediteーションとしては顔写真部分が不明瞭で小さいので改善が必要である。ゾーニングについても誰がどのようなアクセスがあるのか再検討する必要あり。またその上でセキュリティチェックのプランをたてなおすこと。ア krediteーションセンターで実際に携わっていたスタッフからの反省・改善点の報告を入手すること。

## チーム対応

### 宿舎

利用ホテル： 白馬ハイランドホテル(チーム)、スプリングスホテル(チーム)、東急ホテル(FIS)、山のホテル(スイスタイミング、組織委員)

数シーズン前まで FIN や AUT チームに限りチームの希望もあり分宿をしていたが、輸送スタッフとアタッシュェの人数を考えると分宿は難しい。来年は少なくともチームは一つのホテルにするべきである。

白馬ハイランドホテルはジャンプ台より遠い、食事時間など融通が利かない等、大会期間中の選手宿舎としては不向き(ホテルフロントスタッフも英語対応ができない)。

### ジャンプ台選手エリア

補食に関しては、サンドイッチを準備したことにより格段に良くなった。菓子に関してもなくなっ  
てから検討するのではなく、十分に用意していく必要がある。

キャビンの老朽化が進んでいるので将来的な対応が求められる。

選手エリアの照明が不十分。ノーマルヒルのコーチボックスあたりに照明を設置することにより改善できる。

選手エリアのインフォモニター(スイスタイミング)はグラフィックモニターがあるので必要なし。  
インフォモニターはメディアの方で不足しているので来年はミックスゾーンへ移動。

駐車券に関しての対応は成果があり、バスの旋回にも問題がなかった。来年も日本チームに関しても規制をかけること(上はナショナルチーム4台+サービスマンのみで後はドロップオフでAの駐車券)。

### 体育館

期間中(最低でも金曜日午前一日曜日午後)、十分な面数(最低2面バレーボール、3面が望ましい)を抑えること。

### 食事

ホテルでの夕食が不可能だったため、金曜日はケータリング、日曜日は苦肉の策で手作りスパゲッティを選手エリアにサービスして対応した。来年は事前に調整する必要あり。

## 競技運営

### TCM

TCM 会場の準備ができていなかった。

プレスルーム

プレスルームと受付の準備ができていなかった。

司令塔ジュリールーム

FIS 役員がジュリールームに入ったとき、準備ができていなかった。

補食が何もなかった。

スタート

問題なし。

TCM、プレスルーム、ジュリールームに関しての問題は共通している。今大会は新規にトライしたことに重点を置き、今までのスタッフがそれまでやってこなかったことに従事していたため、指示系統に十分な余裕がなかったように思う。

武藤慶太氏がミーティング・司令塔での議事録等を全て引き継いで、非常にうまくいっていることからこれらのことの責任者として指示できるようなスタッフに育てていくことにより問題は簡単に改善する。

大切なのは白馬村全体から役場、スキークラブなども含め、各方面から能力&やる気のあるスタッフにこれまで以上に協力をお願いし、またその中から適材適所で配置を決め、担当者を決めてその部門でどんどん何ができるかをアイデアを出し合い、さらにどう改善していくか話し合いを進めていくことが大事かと思います。

勝手に思いついたまま、色々な事を報告として書いてまいりました。最後に私個人的なことですが、10年以上にわたりわざわざヨーロッパからの旅費まで負担していただいて私を大会のために呼んでいただいて、みなさんと一緒にお仕事をさせていただいていること、本当に感謝いたします。白馬での大会を一緒に皆さんとやらせていただけることは何より楽しく、やりがいを感じています。今後も大会が継続されますこと、また大会が発展を続け、「夏の終わりには白馬グランプリ大会あり」と地域またゆくゆくは全国的に思われるような大会作りができますようお祈り申し上げます。また願わくば今後も少しでもそのお手伝いをさせていただけると嬉しく思います。